

## 「SPC9-API」機能 Excel と連携させる場合

Excel 等のアプリケーションソフトと SPC9 との連携を行なうためには、テンプレートファイルの作成と VBA プログラムの作成が必要になります。

### 1. 印刷するラベルの内容の決定

まず、元となるデータから、どの様なラベルを印刷するかを決めます。

Excel の場合は、どのセルをラベルの何処に印刷するかを決めてください。

また、セルのデータを VBA プログラムで処理（演算や文字列操作など）した結果を、印刷することも可能です。

例)

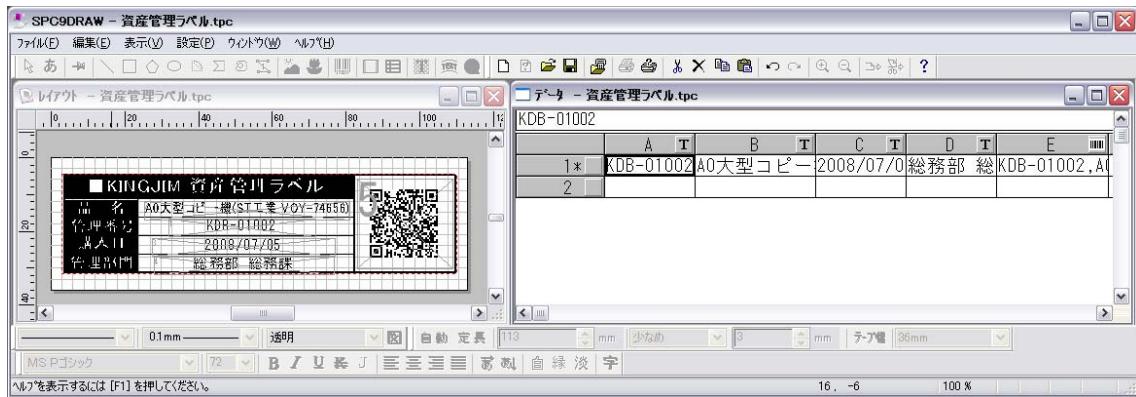
■KINGJIM 資産管理台帳 2009年度版			
管理番号	品名	購入日	管理部門
KDB-01000	ノートパソコン(USSテクノロジ NCC-1701)	2006/10/30	開発部 開発一課
KDB-01001	プロジェクター(SP電気 X-680XIV)	2007/6/16	営業部 第一営業課
KDB-01002	A0大型コピー機(ST工業 VOY-74656)	2008/7/5	総務部 総務課
KDB-01003	40インチ 液晶テレビ(AEC電器 LTV-W40BS)	2009/3/21	計画部 企画二課



QR コードは、A 列～D 列を結合したもの  
(VBA プログラム中で結合)

## 2. テンプレートファイル (TPC ファイル) の作成

1. で決めたラベルの内容に従い、SPC9 の流し込み編集（新規作成画面で“データ作成 ウィンドウを開く”にチェック）で、ラベルのデザインを行います。



A列、B列、C列、D列…のラベル上での印刷位置の割付けと、見出しや枠線などのデザインも行ないます。

その際、A列、B列、C列、D列…の並び順が、印刷データファイル (CSV ファイル) でのカンマで区切られた並び順に該当しますので、印刷データファイル生成処理のプログラムを作成する時には注意してください。

テンプレートファイルに入力した文字データは「SPC9-API」機能では印刷には使われませんので、ラベルのデザインを作成するために適当な文字列を入力しておいても問題はありません。

この例では E 列が、QR コードの流し込み枠になっています。印刷データファイル中の 5 番目の文字列が上記の E 列に当りますので、その文字列で QR コードが生成されることになります。

## 3. VBA プログラムの作成

Excel の VBA プログラムの主な処理は、以下の内容になります。

### ①VBA プログラムの起動条件の定義

印刷を開始するきっかけを定義します。“F12 キーを押す”、“画面上のボタンをクリックする”など、ご利用になりたい方法に合わせ、プログラムしてください。

### ②印刷データファイル (CSV ファイル) の生成

2. で作成したテンプレートファイルの A 列、B 列、C 列…の並び順に合わせ、印刷データを CSV フォーマットで生成します。ここで出力したファイルのパス位置は、SPC9 の呼び出し時に必要になりますので、注意してください。

本例の場合は、“管理番号、品名、購入日、管理部門、QR コード文字列” という並び順の CSV ファイルを生成することになります。

どこのセルの文字列をどのように処理するかは、お使いになりたい仕様に合わせてプログラムします。

### ③SPC9 の呼び出し

2. で作成したテンプレートファイルと、前段のプログラムで生成した印刷データファイルを指定して、SPC9 を起動します。その際、各ファイルへのパスが間違っていると、正しく動作しませんのでご注意ください。

具体的な記述形式や詳細については、別途、ユーザーズガイドやサンプルプログラムをご参照ください。

「キングジム」、「KING JIM」、「テプラ」、「TEPRA」、「テプラ」PRO、P テープマークは、株式会社キングジムの商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Access、Excel は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。